

さらなるダイバーシティ推進へ 聴覚障がいのある学生との 円滑なコミュニケーションを実現

導入製品 : Cotopat (コトパット)

組織情報

※2023年5月時点

本部 : 京都府京都市
 創立 : 1875年
 学生数 : 約28,300名
 主な学部: 神学部、文学部、社会学部、法学部、経済学部、商学部、政策学部、文化情報学部、理工学部、生命医科学部、スポーツ健康科学部、心理学部、グローバル・コミュニケーション学部、グローバル地域文化学部など

注力するダイバーシティ推進の取り組み

本学は2021年にダイバーシティ推進宣言を発表し、その重要課題の一つとして、障がい学生を支援する取り組みを推進しています。京セラの字幕表示システムは、聴覚障がいのある学生とのコミュニケーション補助のために、大学内に設置しました。当システムにより、会話がスムーズになる効果があるだけでなく、システムの存在自体が、周囲の学生が自らが持つマジョリティ特権に気づき、マイノリティに対する支援の在り方自体を考えるきっかけになっています。



今出川・京田辺両校地のスチューデントダイバーシティ・アクセシビリティ支援室に設置

導入の背景

? 導入前

・ダイバーシティ推進宣言の取り組みとして、聴覚障がいのある学生を支援するコミュニケーション補助システムの導入を検討



導入後

・聴覚障がいのある方と顔の表情を見ながら、スムーズな会話ができるように
 ・健聴者である学生がマイノリティに対する支援を考えるきっかけに

本来の対面コミュニケーションで大切な「表情を見ながら会話」ができる！

これまで、聴覚障がいの方々への文字情報保障では、コミュニケーションにおいて伝達される音声言語を「文字」で示すことで保障をしてきたわけですが、その文字は、手元の端末や、発言者とは別の位置に設置されたモニター等に表示されることが少なくありませんでした。発言者の発話内容を把握するためには、発言者から視線を外さざるをえなかったわけですが、当システムを用いることにより、アクリル板に発話内容が表示されることで、まるでテレビや映画を見ているように、発言者の顔の表情を見ながら、発話の内容を（瞬時の音声翻訳機能のおかげで）ほぼ同時に把握できるようになりました。本来の対面コミュニケーションの重要な要素を損なわない会話を実現できるという意味で有効なシステムといえます。

文化情報学部 教授 阪田 真己子 様



相手の顔の表情と発話内容がほぼ同時に把握できる